

## 教員活動状況報告書

提出日：令和 5 年 3 月 10 日

所 属：生命・環境科学部 教職課程

氏 名：福井智紀 職位：准教授

役 職：なし（教職課程主任代行）

## I ティーチング・ポートフォリオ

## 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

教職課程専任教員として、中学校理科および高等学校理科・農業の教員免許取得に関する各科目を担当しているほか、教育実習の事前・事後指導や、教員採用に向けたキャリア形成支援など、教員養成課程の全般に係る教育活動に携わっています。さらに、環境科学科における科学技術論など、一部の学科の専門科目や卒業論文指導も担当し、学部・学科における専門教育にも携わっています。全学科で設定されている地球共生論もオムニバスの1回を担当しています。大学院では、環境保健学研究科における授業および研究指導を担当し、修士論文の指導も行っています。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
教育の方法と技術	教職課程（全学科）	教職必修	1	33
理科指導法Ⅰ	教職課程（全学科）	教職必修	2	36
理科指導法Ⅱ	教職課程（全学科）	教職必修	3	22
理科指導法Ⅲ	教職課程（全学科）	教職必修	3	22
教育実習指導・教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ	教職課程（全学科）	教職必修	4	18
教職実践演習（中・高）	教職課程（全学科）	教職必修	4	18
科学技術論	環境科学科	選択	2	15
地球共生論	全学科	選択	1・2	518
環境教育学特論	環境保健科学専攻	選択	院1	4
環境教育学特別実験Ⅱ	環境保健科学専攻	必修	院2	1
環境教育学特別演習Ⅱ	環境保健科学専攻	必修	院2	1
科学者・研究者論	環境保健科学専攻	選択	院1	15
リサーチローテーション	環境科学科	必修	2	54
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	1
科学の伝達	動物応用科学科	必修	4	1

卒業論文	環境科学科	選択	3・4	3
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	1

## 2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

教職課程専任教員として、各学科での学修成果を踏まえた、本学の卒業生らしい教員を養成していきたいと考えています。また、教職に就かない学生にとっても、教職課程の学修が活きるよう、念頭においています。授業科目以外でも、教育実習の事前・事後や教育実習中の精神的サポートを含めた支援に、意識的に取り組んでいます。これらを通じて、特に「理科」という教科を自信をもって指導できる学生を、育てていきたいと考えています。さらに、他教科や総合的な学習の時間、特別活動や生徒指導・進路指導、および、教育通信技術(ICT)の活用なども念頭に置いた、より俯瞰的な視点で学校教育に携わることのできる学生を、育てていきたいと考えています。専門科目・卒業論文・修士論文指導を担当している学科においては、学科・研究科の教育理念を念頭におきつつ、将来社会において活躍できるための基礎・基本を形成できるよう、自己の専門領域（科学教育・環境教育・科学技術社会論）を活かした教育研動に尽力していきたいと考えています。

## 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教職課程では、4年間を一貫した視点で考えて、学生の成長を支援しています。長期間同じ顔ぶれのため、マンネリに陥らないよう、理科教育や周辺領域の最新の知見や動向に常に気を配っています。また、理論的な内容から実際の指導場面に関わる具体的な内容まで、様々な興味を惹くトピックを取り上げるよう、授業を見直しながら行っています。実際の授業では、ポイントが整理されたわかりやすい説明を心掛けています。また、実際の指導場面や日常生活の状況とも関連付けた理解が進むよう、映像メディア等の資料を積極的に活用しています。さらに、グループ・ディスカッションや模擬授業など、学生主体の活動を取り入れるように留意して、内容や授業方法を工夫するよう心掛けています。

### アクティブラーニングについての取組

理科指導法ⅠとⅢでは、学生による模擬授業を、全員に実施してもらっています。それに向けて、学習指導案と授業プリント・板書計画も作成するため、方法の解説や支援を行っています。教育の方法と技術では、様々な教育方法と教育技術について、なるべく実践的に理解できるよう、活動の時間を取り入れるようにしています。例えば、指定した単元の板書計画を立てる活動を行っています。また、アクティブラーニングにも有効とされる思考ツールや評価方法について、授業の中で具体例を紹介しています。教育実習指導や教職実践演習で

は、テーマについて討論を行ったうえで全体報告を通して共有する活動など、学生主体の活動を積極的に取り入れています。

## ICT の教育への活用

学生からの提出物は、學理を活用して集めています。また、学習指導案の様式など、学生の主体的活動に役立つ資料を學理にアップロードして、確認やダウンロードできるようにしています。授業の録画動画も、原則として毎回、授業後に提供しています。グループ討論のあとの全体報告などでは、ICT を活用してリアルタイムに出された意見を共有・確認できる効果的な方法を探っているところです。また、「教育の方法と技術」などの教職課程授業の一部として、ICT の活用方法や生徒への指導方法についても授業内容として取扱うとともに、情報モラルについても時間をとって講義しています。この他、例えば「理科指導法 I」では、オンラインと対面の両方式での学生による模擬授業を実施しています。卒業研究・卒業論文の指導では、特段の機密事項や個人情報の懸念がない場合には Slack を活用し、学生からワードやパワーポイントのファイルを随時提出してもらい、研究室内で共有するとともに、それに直接コメントする形でフィードバックを行っています。研究室でも、基本的な ICT 環境を整備するようにしています。

## 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

### ①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

例年の授業改善への試行錯誤に加え、対面授業の再開により、主体的な学習を促すための様々な創意工夫を行いました。

### ②学生の理解度の把握（A）

学生の理解度を把握できるよう、學理を活用して毎回課題やテストを実施しました。さらに、対面授業を再開したことから、直接の学生の様子も注視した結果、昨年度のよりも理解度の把握という点では改善が見られたと考えます。

### ③学生の自学自習を促すための工夫（A）

上記の対応なども含め、学生の自習的な活動を積極的に取り入れるようにしました。學理を活用して、授業資料や授業録画を積極的に提供しました。

### ④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

授業前後に質問等に答えるなど、コミュニケーションが疎かにならないよう留意しました。また、授業後や事前にいただいたメールにも、なるべく速やかにかつ丁寧に対応を行い

ました。ただ、自ら積極的に関わってこない学生に対しての働きかけが、やや弱かったのではないかと反省しております。

#### ⑤双方向授業への工夫 (A)

今年度で大学で推奨された内容・方法に従いつつ、学生の過度な負担にならないよう留意して、學理を活用しながら対面授業を実施しました。直接コミュニケーションを取るよう留意し、さらに、特に教職課程の授業ではグループ活動や ICT を活用した授業を折に触れて実施することで、学生間の意見や情報の共有が進むことを目指しました。さらに、11 月頃より電子黒板の導入が叶ったため、積極的に活用するようになりました。

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

#### ⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。)

※本欄は該当しません。

### 5. 学生授業評価

#### ①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

開始時刻と終了時刻に例年同様に注意しました。学生が興味・関心を持ちやすいよう、例年の授業内容を適宜見直しながら実施しました。しかし、予習・復習を促すことについては、学生への過度な負担にならないよう配慮する必要もあり、例年なかなか改善できずにいるところです。

#### ② ①の結果はどうでしたか。

特筆すべき致命的な改善点は把握できませんが、まだ完全とは言えない状況です。予習・復習についても、他の科目も含めて例年平均自体が低いですが、担当科目においても引き続き改善が必要な項目であると認識しております。

#### ③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

次年度も引き続き、開始時刻・終了時刻に一層注意します。また、学生が主体的に授業に取り組めるように、最新動向や ICT 活用を含む教育手法にも目を配りつつ、内容・方法の改善にさらに努めたいと思います。予習・復習の促進については、教職に就くことや、教員免許取得のために、卒業時までどのような資質・能力が求められるかという点への全体像・ロードマップのようなものを示したうえで、その中で必要なことを主体的・日常的に取り組んでいただくような視点を持たせたいと考えております。

## 6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

特に教職課程の科目では、学生が主体的に取組む機会を重視しています。例えば、理科指導法Ⅰ（2年生）と理科指導法Ⅲ（3年生）では、全員に模擬授業を課しています。各自の持ち時間は短いですが、他の学生の前で授業を披露する機会となっています。模擬授業では、簡易的な演示実験等や、情報通信技術（ICT）活用を推奨しました。なお、模擬授業では、自己の授業を客観視できるよう、学理を通じて録画データを閲覧可能としています。さらに、他学生からのコメントを学理のテスト機能で回収して匿名化のうえ公表し、学生が自己の課題を確認するために役立てています。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

最終レポートでは、自分自身の教育実習までの課題や、課題克服の具体的アクション、目標とする理科授業像などを記載してもらっています。内容を見ると、それぞれの学生が、授業を通して自分自身の現状を把握し、教職課程における今後の学修への方針を明確にできていると思われまます。

## 7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

担当授業等のやむを得ない所がない限り、開催されるすべてのFD研究会に参加し、授業や教育活動を見直す機会としています。

## 8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

短期的な目標としては、教職に関わる確かな知識と技術を育成することで、教員採用試験の受験率・合格率を高めていきたいと思ひます。

長期的には、神奈川県などで教員として実際に活躍できる人材の育成に努めていくとともに、教職に就かない学生においても、教職課程の学修が活きていると将来実感できるような教育活動を構想していきたいと考えています。

## 9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

- ・ 学理における授業評価、課題・テスト回答結果、最終試験・レポート結果、その他提出物等
- ・ シラバス（授業内容等）
- ・ キャンパスプラン（履修状況・成績評価）
- ・ 講義資料（パワーポイント・レジュメ等）
- ・ オンライン授業の録画映像（授業点検資料）
- ・ 科学教育・環境教育分野における研究論文・報告等（教材研究）
- ・ 科学研究費補助金交付決定通知（科学教育・環境教育分野のプログラム開発）

- ・ 卒論指導学生が提出した卒業論文要旨・卒業論文（卒論指導成果）
- ・ 修論指導院生が提出した修士論文（修論指導成果）